

< 護岸検討委員会からの報告 >

緑化試験等の進め方

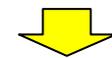
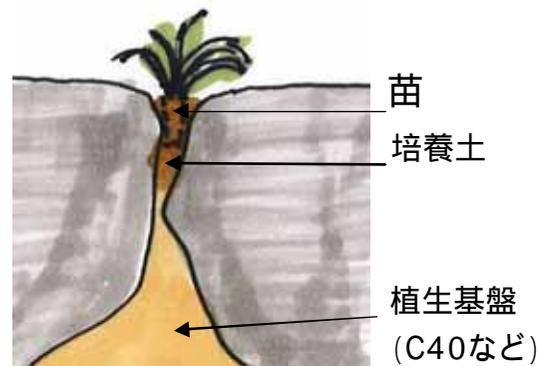


平成20年1月

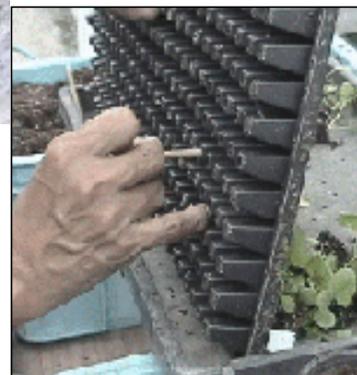
1. 検討項目

(1) 緑化試験 (H20年度実施計画の記載事項)

石積み護岸法面の緑化と背後遊歩道部の植栽を目的として、乾燥・塩害への耐久性と景観上の観点から植物種の選定を行う。



隙間を利用した基盤づくり

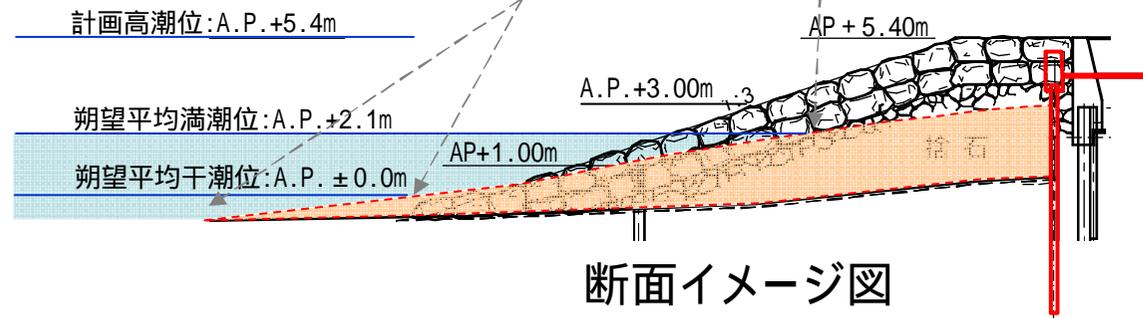
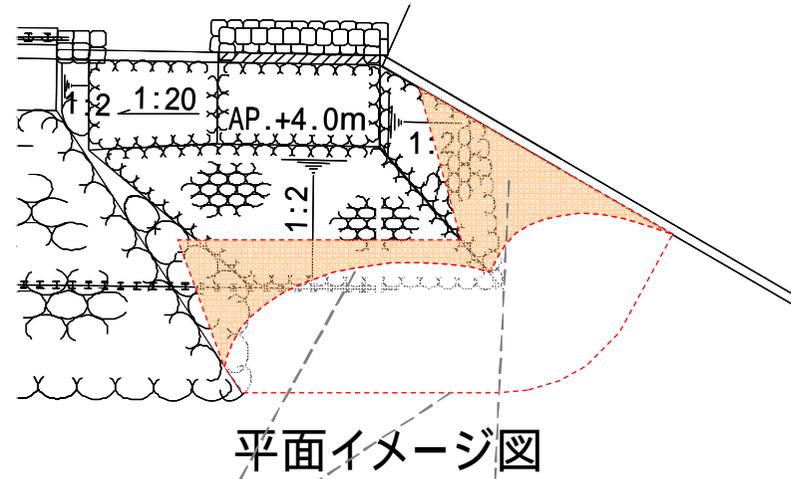


(2)さらし砂試験としての提案 (護岸検討委員会の意見から)

1丁目隅角部の静穏域を利用して、さらし砂を投入した場合の砂の挙動とそこに構成される生物相を確認し、今後の護岸バリエーションの検討材料としてはどうか？



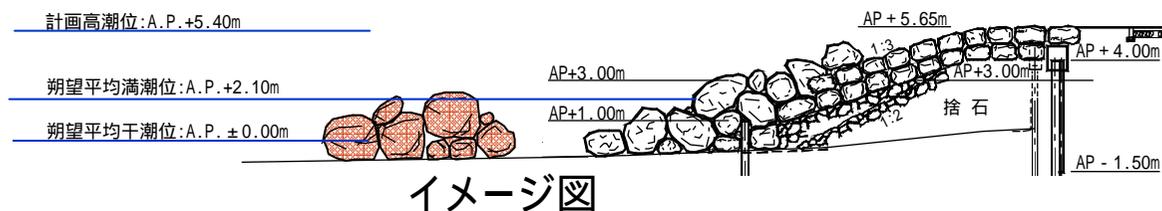
試験の場所の状況



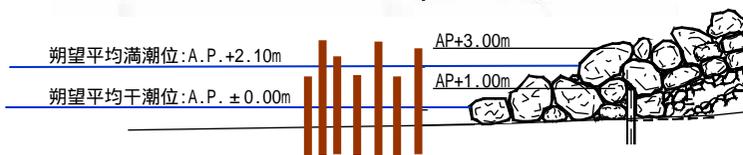
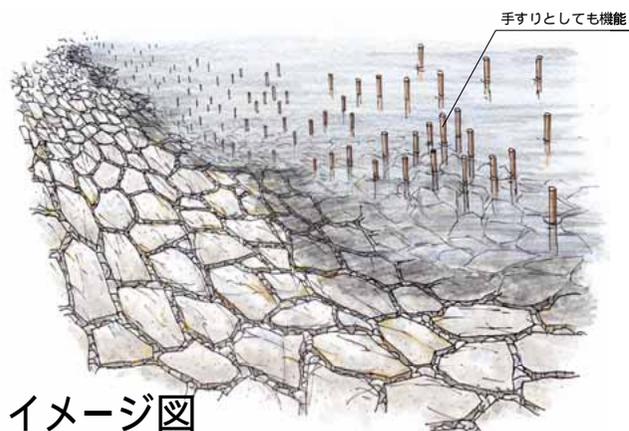
(3) バリエーションとして提案されたもの (今後どう検討するか)

これまでバリエーションとして提案された要素について、設置した場合の影響や効果など具体的な検討をどう進めるか？

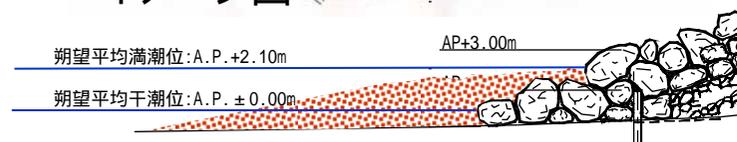
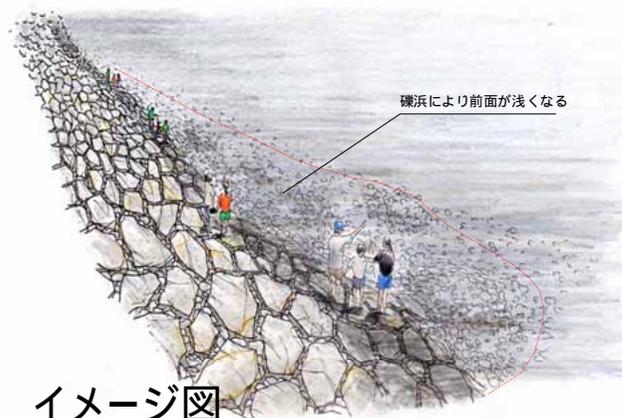
遮へい物



止まり木



浅場



2. 緑化試験の進め方(案)

(1) 考え方

試験項目	特徴	進め方
緑化試験	陸上、モニタリング	・市民参加を求める ・事業者施工で公開型



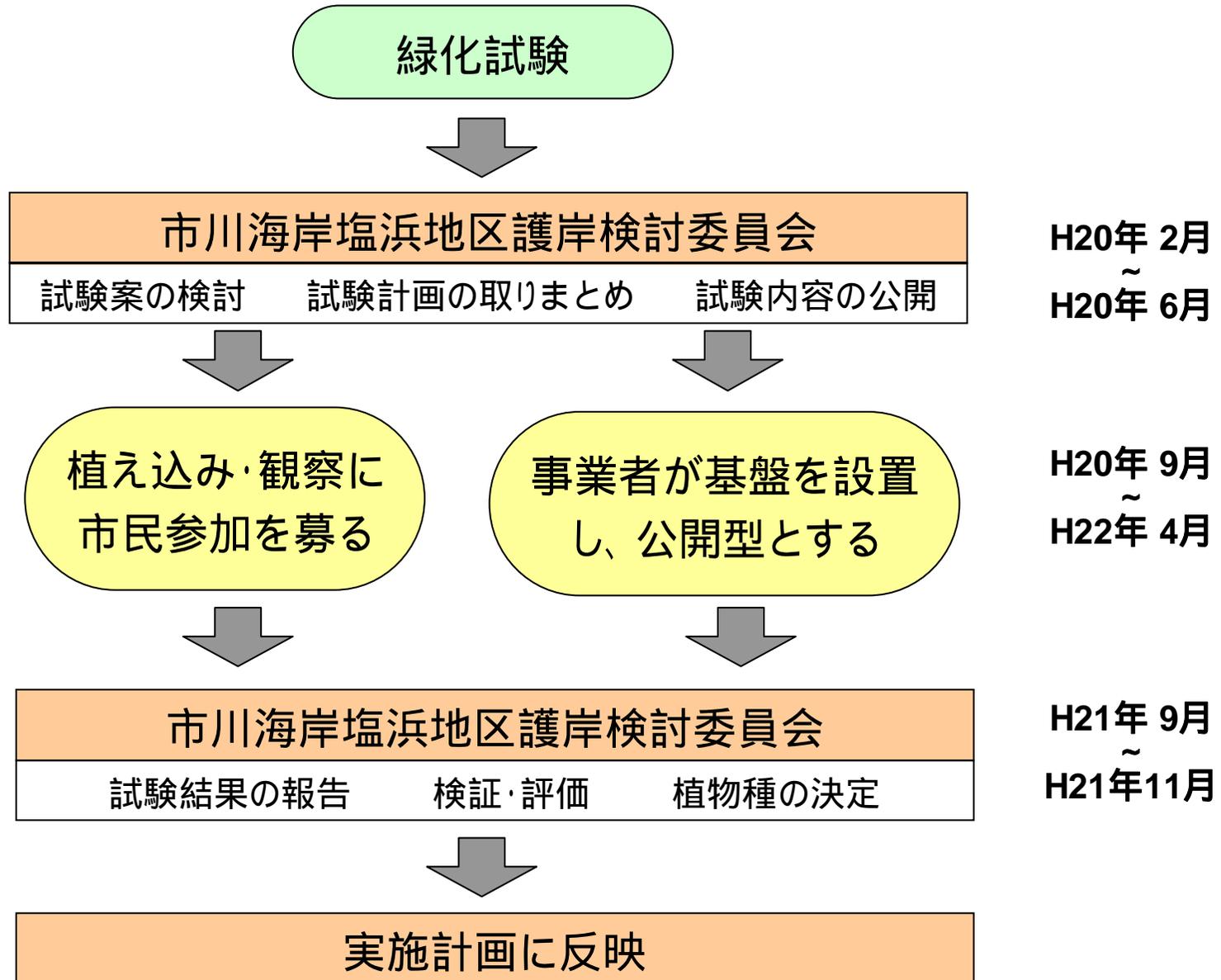
試験内容について

試験内容を護岸検討委員会で検討し、試験計画として取りまとめ、ホームページ上で公開する。

現地試験(植え込み、観察)について市民参加を募る。

観測終了後は試験結果の検証と評価を行い、護岸検討委員会で植物の種類を決定する。

(2) 進め方のフロー



3. 緑化試験の実施計画

植物種の選定

石積み護岸の緑化及び遊歩道の植栽のための植物種を専門家等の意見を参考に選定する。

石積み護岸

- ・被覆石の隙間や表面を利用して植えることができるもの。
- ・立地環境に耐えられるもの
- ・海と陸の連続性の環境づくりの主旨に合っているもの
- ・外来種、帰化植物でないものなど

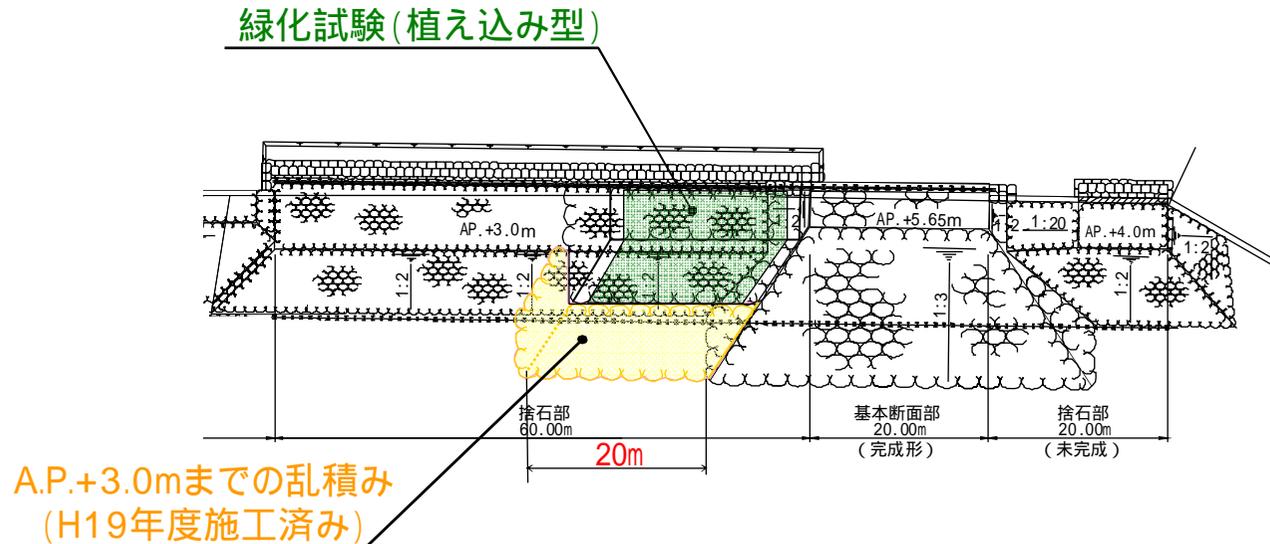
遊歩道

- ・立地環境に耐えられるもの
- ・海と陸の連続性の環境づくりの主旨に合っているもの
- ・外来種、帰化植物でないものなど

物理条件

フィールドの位置・面積について

- 被覆部への植え込み型 : H19年度施工の上段に当たる被覆部分
(A.P.+3.0m以上)
- ・天端部分: 約70m² (A.P.+4.85m)
 - ・法面部分: 約90m² (A.P.+3.0m ~ 4.85m)



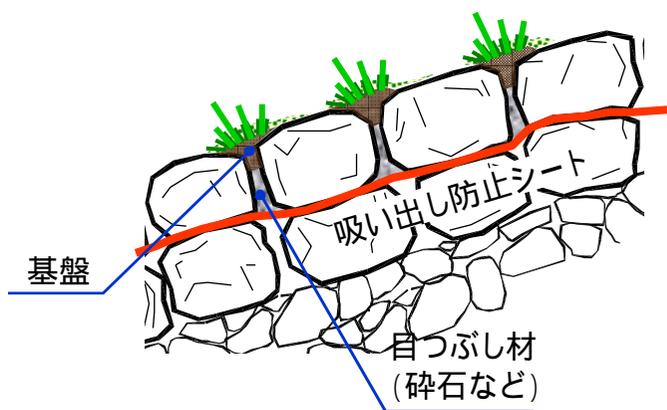
試験フィールドの位置図

植え込み方法

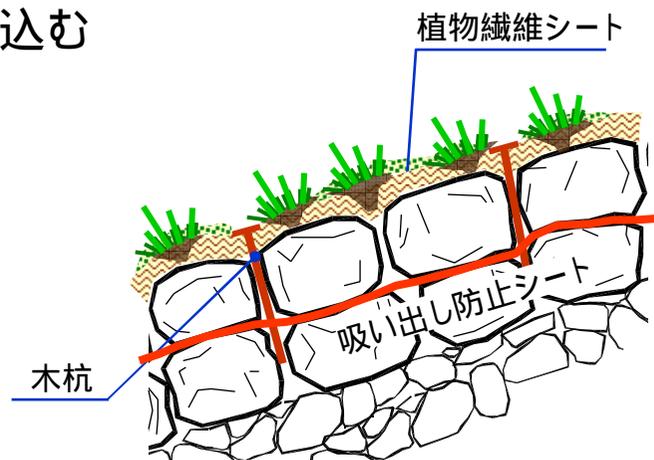
石積み護岸への植え込み方法について

石積み護岸の植え込み方法の一例

- ・被覆石の隙間を利用して植え込む
- ・被覆石の表面に基盤を作って植え込む



隙間利用タイプ

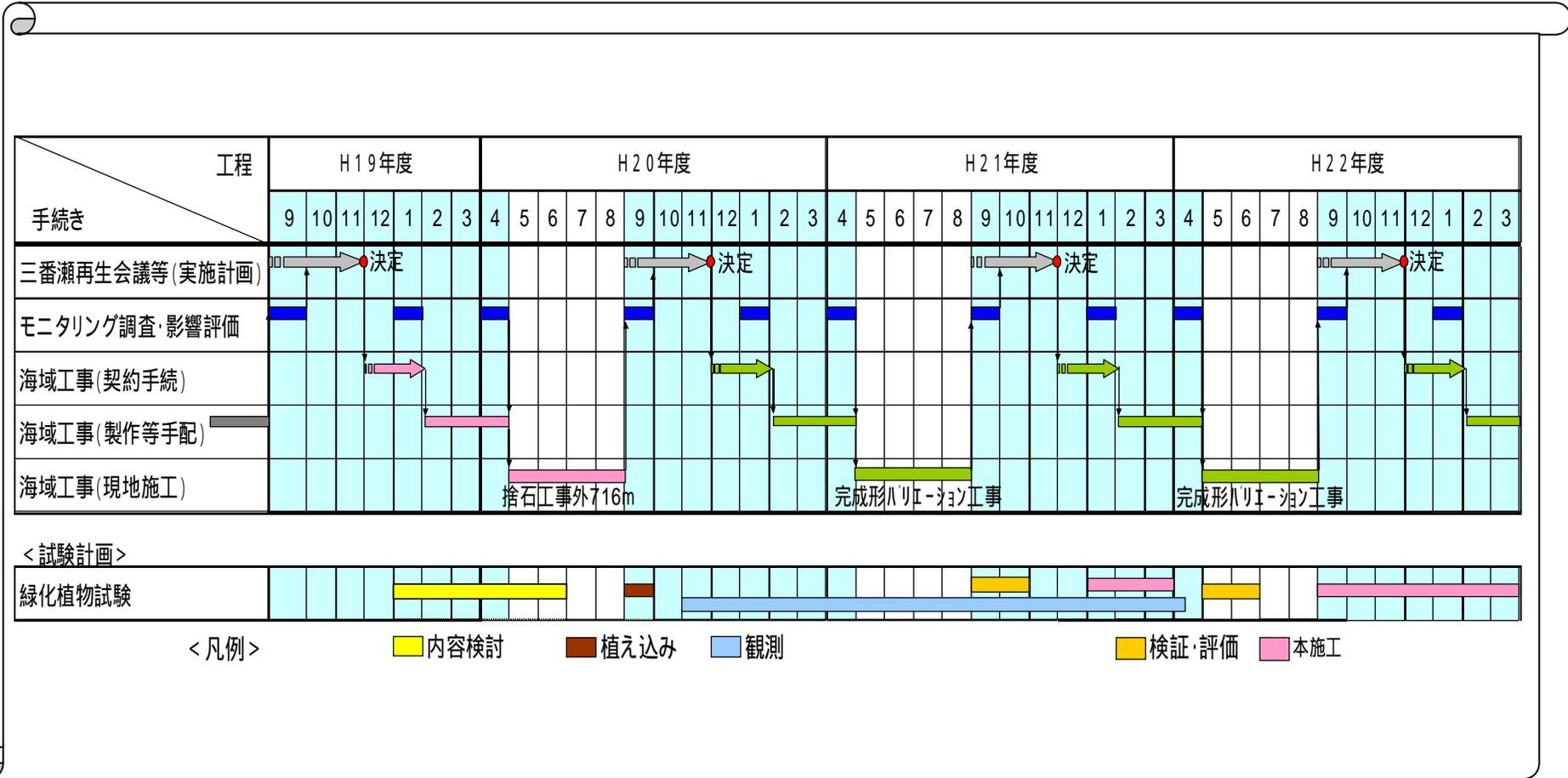


全面的な被覆タイプ

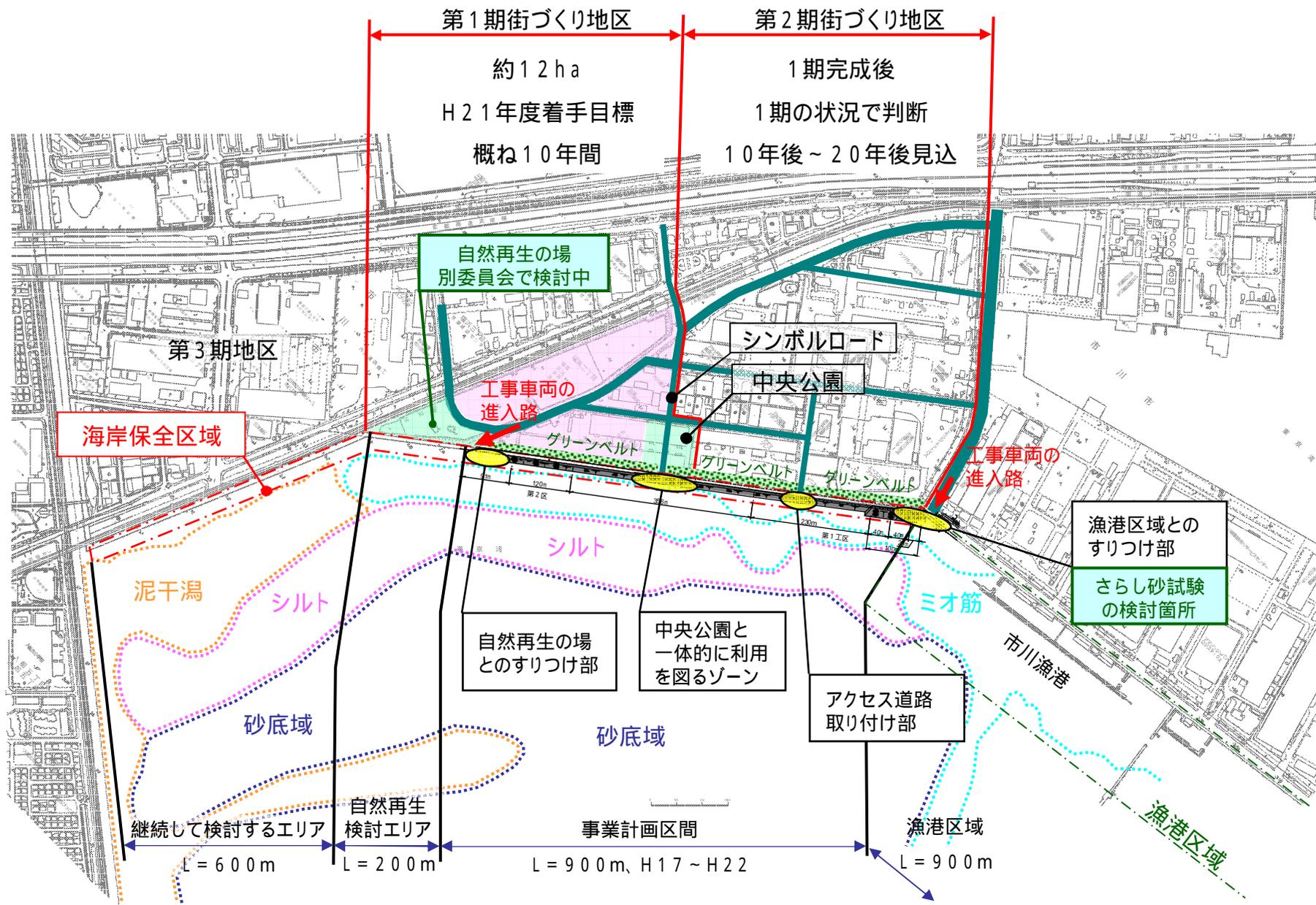
植え込みイメージ

実施スケジュール(案)

植物の植込みや観測の時期・頻度等について
試験期間や実施密度の時間条件について



与条件の整理 (護岸バリエーション検討資料)



さらし砂試験への主な意見

漁港の航路に隣接している為、砂が流れ出ないように先端に砂止めの石を置いて欲しい。

砂を入れる試験をするならば、満潮位を超える位置まで入れるべきである。

投入する砂の種類や形状など、目的に応じて試験の方法はいろいろ考えられる。

護岸検討委員会として、さらし砂試験の実施について結論は出てはいないが、今後も検討を進める。